

秋季彼岸会永代経法要

講題 亡き人からの贈り物

講師 源 裕樹 先生

2023年9月20日(水)



本日蒸し暑い中でしたが、多くの方がお参り下さいました。おつとめは「仏説阿弥陀経」を皆さんで和讃入りでおつとめ致しました。



お彼岸までに御法事をつとめられた方がお供え下さい、お供えした後、御下がりとして皆様にお持ち帰りいただきました。ありがとうございました。院主さんの挨拶の後、源先生からのご法話。「亡き人からの贈り物」と題をいただきました。法事や永代経のご縁とは、亡き人から“もの”をいただくことと浄土真宗では味わいます。



その亡き人からいただく“もの”とはお経のお言葉。それは仏さまの教えによって本当のわたしの姿を知らされるというものです。

「私」には、

- ①私も他人も知っている「私」
- ②私は知っているけど他人は知らない「私」
- ③私は知らないけど他人は知っている「私」
- ④私も他人も知らない「私」

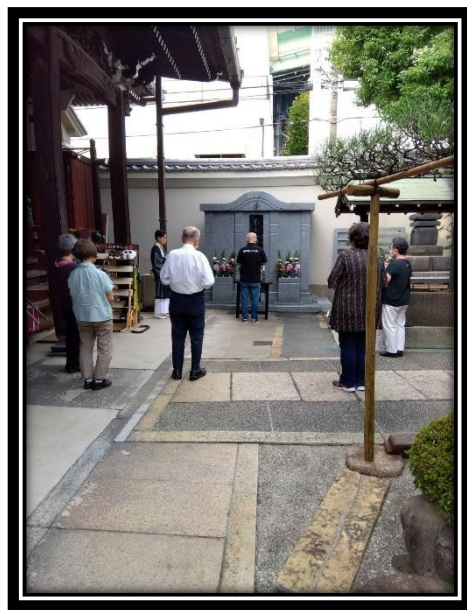
こんな見方があります。



しかし、阿弥陀さまは私の底の底の底、表も裏も、過去も未来も現在も全て見通してこの「私」を救える仏になると誓って下さいました。今日、本堂に参り、口からお念仏が出ているのは、阿弥陀さまのおはたらきが至り届いているからだとお聞かせ下さいました。「仏説阿弥陀経」に出て来る、「舍利弗」は知恵者「周利槃陀伽」は記憶力の悪い者と言われるが、阿弥陀さまにとってはどちらも愛しい者。どちらも同じく救って下さいます。私が日々、どんなに変化し変わろうともそのままを救って下さるのが阿弥陀さまです。



「亡き人からの贈り物」とは、お経を聞くこと。それは仏さまのお心を知ることです。常に24時間365日、この「私」に「そのままのあなたを救う。あなたのいのちを抱きしめ、死んだら真っ暗闇ではなく、仏となる命にする。任せていいんだよ！とはたらきかけて下さるのが私たちの「阿弥陀さま」という仏さままでであるとお取り次ぎいただきました。



法要の後、納骨堂の前でおつとめしました。お聴聞に続き、お参り下さいありがとうございました。

コロナ以前より4年ぶりに法要後、役員さんに残っていただき、お寺についての話をした後に、歓談を楽しみました。気さくな源先生も加わり大盛り上がり。盛り上げ上手な源先生でした。

秋季彼岸会永代経法要、無事厳修致しました。ありがとうございました。

